

明けましておめでとうございます

本年もよろしくお祈りします<(_ _)>

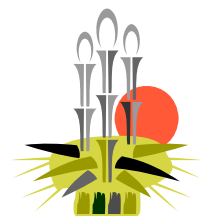
きしゅう会計の名倉です。

「一年の計は元旦にあり！」って言いますが、昔長い間勘違いをしていて「一年の刑は元旦にあり！」と思っていたんですねえ、、、初もうでは日本版の懺悔のようなものなのかと(-_-;)。

、、、、、、冗談はさておいて(笑)

元旦って一年で一番「これからがんばるぞう！」って気持ちになる日だと思います。節目っていうのは気分転換にもってこいですよね。「よし！今年こそはやる！」ってね。ただ、人って、「未来の自分には厳しくて、今の自分を甘やかし、過去の自分を反省する」って傾向になりがち(残念ながら僕もこの分類ですなえ ^^;)。そして、問題は自分にあるのに他人のせいにしてしまう、、、そんなこんなでお悩みの方に

2014 年度最初にお奨めがこの本(^.^)→全世界で 2000 万部のベストセラー「7つの習慣」の漫画版です。前から読まなきゃと思いつつも、スティーブン・R コヴィー氏の書籍はちょっとボリュームがあるので、、、と手を付けていなかった方にはうってつけ。読みやすく、分かり易くまとまっています。出張帰りに新大阪でたまたま見つけてそのまま購入。くろしおの中で読み、これはいいと、事務所に帰り、早速ネットでスタッフに配るように入数分用意しました。自己啓発の本って色々出てい



ますが、「自己啓発はこれ一冊でOK！」ってな感じの本です。学生の頃に読んでおきたかったなあと思ったりもしますが、前述したように「過去の自分を反省する」段階を何度も経験しているのでそんな風に思うのでしょうか。なんだかダレ気味の高 1 の息子に読んでほしいと思いますが、今読んでわからないかな。スタッフに配る際には、「かっこよく生きるためのバイブルみたいな本だよ」と紹介しました。皆様も是非一度お読みください。

さてダレ気味息子の話がでましたので、もう一人の高 3 の娘の話を少しします。そう、高 3 で受験生です。このかわら版が皆様のお手元に届く頃にはセンター試験まであと10日を切っていることとなります。(2014 年1月号発送随分遅れました。すみません<(_ _)>)

娘の方は、高校生になってからは自分にエンジンがついたようで「勉強なさい！」って僕も嫁さんも言ったことないと思います。何故かリビングですずっと勉強しています。僕がテレビをつけても自分の部屋にいかないで、、、集中力はあるようです。ただ、第一志望の学校は、ちょっと手の届きそうな、届かなさそうな感じのようで、センター試験での結果を見て、嫁さんと二人で戦略を考えるようです^^;

ここまでの人生大きな挫折もなく来た彼女。今回の受験もうまくいけばいいのですが、試験は水物、何が起こるか分かりません。親として、もちろん合格することを望んでいますが、ダメだったとしても、がんばってきた自分を否定しないでほしいと思っています。



そう、一生懸命がんばってきたんだからね。3 月号くらいで、サクラ満開のイラスト付きのかわら版をお送りできればと思っています。さて、それでは今回のテーマですが、受験の話も出ましたので、その関連の話をしてみたいと思います。1月6日付けの読売新聞にこんな記事が出ていました。

日本史、高校での必修化を検討

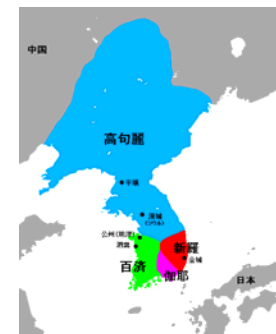
政府が高校での日本史の必修化を検討していることが5日、明らかになった。

日本史は現在、選択科目だが、海外で活躍する日本人が増える中、自国の歴史を十分に学び、理解している人材を育成すべきだと判断した。文部科学相が今夏にも中央教育審議会(中教審)に高校の学習指導要領の改定について諮問する。教科書検定などを経て、早ければ2019年度から日本史が必修科目となる。高校の「社会」は1989年の学習指導要領の改定で「地理歴史」と「公民」に分かれ、「地理歴史」の中で世界史が必修に、日本史が地理との選択制となった。改定前も日本史、世界史、地理は選択科目だったが、「国際化への対応」を優先した結果、学校現場で「日本史軽視」の風潮が広がった。文部科学省によると、現在3~4割の高校生が日本史を勉強せずに卒業しているとみられる。

この記事、どう思われます？僕は学生の頃なら歴史の勉強が大嫌いだったので、「そんなん自由にさせればええやん！」と深い意味も解らず息巻いていたと思いますが、今は違います、基本的には賛成ですが、、、

実は最近、日本史の勉強をしています。といっても車で移動中や、ジョギング中に、Febeと

いうオーディオブックを聞いているだけですが、、、^^; <http://www.febe.jp/mypage> 最初に聞いたのが竹内睦泰著「超速！最新日本史の流れ」、次が井沢元彦著「日本史集中講義一点と点が線になる」どちらも、とても面白いんです。特に井沢元彦氏の方は何故日本史の授業がつまらないのかの解説から入り、日本史というのは他の教科と違い、他の国からの干渉が入り易く、日本はそれに配慮しすぎだとか、学校で日本史を教えること、学ぶことの障害についても分かり易く述べられています。これらの知識を得ていたので、この新聞記事を読んだ後すぐに、「必修化！？その前に日本史の教科書の中身の見直しが先やんか！」と強く思いました。だって、「自国の歴史を十分に学び理解している人材を育成すべきだ」というのであれば、正しい歴史の認識が大前提のはずですよ(日本って国も、日本人も誇りにできる立派な歴史があるんです！)。今の教科書は他の国に気を遣い、またあまり内容を多く盛り込めないことから、事実を誤解させるような端折り方が数多く見られるようです。例えば、今の教科書、僕たちが習った「帰化人」が使われなくなり、「渡来人」に変わっていることをご存じですか？「帰化人」とは大陸から日本に移住し定住した人々のことなのですが、一般的には移り住む国の方が先進国になるそうで、中国や韓国から「日本の方が当時文化が遅れていたのに帰化人

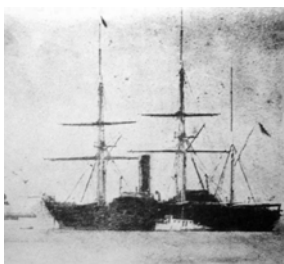


という表現はおかしい」と抗議されてずいぶん前に、「渡来人」という表現に変わっているとのこと。文化が遅れていたかどうかは別として、実際には当時そのように呼ばれていたという事実が日本書紀等に残されているんですけどね。また韓国の自国の歴史の教科書には、「日本からは文化も技術も何一つ学んだものはない」なんて記載があるそうです。「何もなし」、そんなことはないと思うんですけどね。



ただ、このような日本の弱腰の外交については歴史的な原因もあるようです。黒船が来たときにアメリカ、ペリーはかなり、上から威圧的に開国

を迫ったそうで、それで結局、開国、関税自主権のない不平等条約締結となった訳ですが、実はペリーが黒船で日本に来る前に、アメリカは2度開国を求めて日本に来ています。なんと最初はペリーのような軍人ではなく、民間人だったそうです。要求は蒸気船で長距離の航海をするため、日本で石炭を補給させてほしいとのこと、、、しかもかなり下手に出ていたそうです。そんなアメリカに対しては、幕府は一蹴したそうで、、、2度目も同じようにして失敗。そこでアメリカは下手にでてはらちがあかんと、3度目は軍艦、軍人を送り込み、威圧的に開国を迫ったそうです。すると、幕府の態度は急変しあつという間に開国。その時のやりとりが今でも日本に対する基本姿勢になっているとのこと、、、日本は上から威圧的に交渉



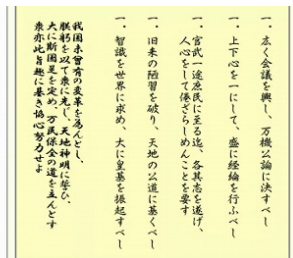
するのが得策と、、、この後いくつかの戦争を経て、第二次世界大戦、終戦となるのですが、今の外交の弱さを見ていると、このような下りもまんざら外れてもないかなと思いますね。

このように、歴史って現代にも繋がっているんだと分かりますよね。

また日本の政治家から物事を決定できるリーダーが出てこないっていうのも歴史的な裏付けがあるようです。古くは聖徳太子の17条憲法に起因しているようです。17条憲法は小学校の教科書では右のように記載

17条の憲法* (一部)	
第1条	人の和を大切に下さい。
第2条	仏教をあつく信ごう下さい。
第3条	天皇の命令は必ず守り下さい。

されていたりしますが、実はもっと原文は長いんですね。第1条が最も言いたいことのはずですが、短か過ぎて大事な部分が抜けています。第1条全文をもう少し詳しくまとめると「なんでもみんなで話し合いをして決めなさい、そうすれば必ずいい結論になる」と言っているんです。(これを話し合い絶対主義という)でも、そんなことないですよ。みんなで話し合っただけで決めたからって必ずいい結論なるとは限らない。また明治維新の際に作られた五箇条の御誓文



五箇条の御誓文

の第1条も「広く会議を開いて、すべての政治は世論に従い決定すべき」とあるのです。日本はみんなで話し合っ

て、みんなで決めるという文化でやってきた「和」の国なのです。だから、社会が複雑化した現代では、決まらない、前に進まない。(^_^)

形式的になっていることも多い稟議書もこの文化の名残のようです。話し合いをする時間はないけど、それと同じ効果のある制度、それが稟議です。みんなで決めたから、何かあればみんなの責任。でもそれって、結局みんな無責任(?)なのではとも思いますが、、、

ただもちろんこの「和」の文化、いい部分も沢山あります。東日本大震災の際に世界中から称賛された日本国民の社会秩序。暴力や強奪が大量に発生してもなんの不思議もない状況で、保つことができた秩序。これを支えた精神の根源は話し合いの「和」の文化に起因することも大きいはずですよ。

外国との戦争について教科書に載せる内容は、戦国時代の内戦のように自由度はないかも知れませんが、それでも正当に、自国に誇りが持てる内容までは押し返さないと、日本史を必修化させる意味は薄いはず、必修にさせたくなる内容へ質のアップ、そのための準備がまずは必要ですよ。

2014年は年初から縁起がいい！

その①

クライアントのK社長のお孫さんが1月1日に生まれました。おめでとうございます。

その②

クライアントのNPOのN理事長さんが1月2日に入籍。おめでとうございます。

その③

知り合いのお母さんが知らない間にお婆ちゃんになっていました。1月4日に知りました(@_@;)。おめでとうございます。

その④は久々に聞いた結婚話。N理事長本当

におめでとございます。未永くお幸せに！
そこでFacebookで見つけた

「結婚に関する20のアドバイス」を贈ります！

- 1、愛することやデートすることをやめない
- 2、自分自身の心を守る
- 3、何度も何度も何度も恋に落ちる
- 4、妻の良いところをみるようにする
- 5、妻の性格を変えようとする
- 6、自分の感情に責任を持つ
- 7、妻を非難しない
- 8、妻の感情の波を受け入れる
- 9、バカになる
- 10、毎日妻の心を満たしてあげる
- 11、妻と向き合う
- 12、妻を女性として扱うことを忘れない
- 13、愚か者にならない
- 14、妻にリラックスできる環境を与える
- 15、弱みを見せる
- 16、妻に対して気取らず率直になる
- 17、常に一緒に成長し続ける
- 18、お金のことを心配しすぎない
- 19、妻を許す
- 20、迷ったら常に愛を選ぶ

<名倉コメント>

「1、愛することやデートすることをやめない」ですが、「7つの習慣」(漫画版ではない)で感心された内容があります。「愛する」って「感情」ではなく、「行動」だそうです。だから、気持ちがなくても愛することは継続できる！「気持ち」よりも「行動」が大事だということ？、、、でも、なかなか「そっかー、そうするー」なんてローラバリには言えないかな、、、(^_^)
※「一行が長くて読みにくい」とのご意見多数頂きましたので、紙面変更しました。

ご意見ご感想はこちらまで

k.nakura@as-group.co.jp